

令和7年度 調布市立第七中学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
校訓 「自尊・立志・感動」 ～徳・知・体の調和のとれた生徒の育成～ ○自尊 「徳」 自分を大切にし、思いやりの心を持つ生徒 ○立志 「知」 夢や希望を持ち、絶えず学び続ける生徒 ○感動 「体」 心と体を鍛え、爽やかな感動を生む生徒	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像	
【目指す学校像】 生徒一人一人に居場所があり、安心・安全で自分の力を伸ばせる学校 【目指す生徒像】 ○自尊 自分を大切にし、思いやりの心を持つ生徒 ○立志 夢や目標を持ち、絶えず学び続ける生徒 ○感動 心と体を鍛え、爽やかな感動を生む生徒	
【目指す職員像】 ○愛情と理性を持って、生徒に本気で関わる職員 ○健康で自己の強みを理解し、生かすことのできる職員 ○指導の目的を共有し組織力の向上に努める職員	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	○現状：生徒・教職員・地域住民が七中に魅力と誇りを実感できるよう「地域協働の学校」作りを目指している。 ○課題：生徒一人一人の「自他を大切にできる心」と「生きる力」を育てていくことが課題である。

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした 育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	豊かな語彙力による表現力の向上を目指す。また、論理的に文章化する力が高まるような指導の工夫をする。	・漢字と知識の定着を図る。 ・語彙力が高まるよう、漢字小テストの実施と辞書、ICT を効果活用を促す。 ・自分の考えを文章化するための準備として思考ツールを活用する機会を多く設ける。
社会	基礎的・基本的な知識を定着させるとともに、社会的事象に対して自ら考え、判断し、表現する力の育成を図る。 学びの習慣化を図り、主体的に学びに取り組む姿勢を育成する。	・授業内でノートやプリントを活用し、まとめ・振り返りを実施し、基本的な知識の定着を図る。協働学習や討論型学習を導入し、社会的事象に対して自分の考えをもち、相手に考えを伝える力を身に付けさせる。 ・授業内で気付いたことをメモすることで、主体的に学び視野を広げる楽しさを感じさせる。
数学	基本的な知識・技能を身に付け、それを活用する思考力を育成する。 振り返りの習慣化を図り、自己調整力を身につけるように指導する。	・毎時間の帯活動で苦手な単元に気づけるようにする。 ・レポート課題を取り入れる。 ・授業内で、演習の時間を活用し、数学的な知識・技能の定着を図る。 ・授業時に振り返りシートを活用し、日々の授業の振り返りを行う。
理科	基礎知識をもとに自然現象を解明するための仮説や考察を立てられるようになる思考力を育成する。	・実験を行う際に基礎知識を確認し、実験を行う。 ・考察や感想を考えると、「気になった」という言葉で終わらずに、仮説を立てさせるように指導する。 ・こまめに問題演習を行い、基礎知識の定着を図る。
音楽	基礎的な知識と技術を表現することにより、主体的に表現する力を育成する。また、音楽を形成する諸要素を感じながら音楽を鑑賞する力を育成する。	・歌唱や器楽については、振り返りシートを利用しながら、自分の目標を細かく定め、ペア・グループ学習を取り入れながら、表現する力を高める。個の技術を高めることにより、パートや仲間の良さを認め、共に成長できるようにする。 ・鑑賞に関しては音楽の諸要素を常に意識してどのように構成されているのか分析する力を身に付けさせる。
美術	作品制作を通して基礎的な知識と創造的スキルを高め、主体的に学習に取り組む態度を育むと同時に、自他の表現の良さを鑑賞できる力を育成する。	・創造的な技能の向上のための練習を取り入れ学習内容の定着を図り、毎時間自己評価シートで振り返りを行う。 ・作品を展示し自他の作品の良いところを伝え合う活動とおして良さを発見する感性を育てる。
保健体育	競技の特性の理解を深め、自ら運動を調整し、能力を伸ばすことができる力を育成する。またグループ活動を通して、より良い人間関係構築を目指す。自分の思いや考えを仲間に伝えられたり、仲間の思いや考えを最後までしっかりと聞くことができたりする力を育成する。	・個人やチームの課題を発見し、課題解決に向けて自身で取り組み方を選べるよう、練習メニューや場の工夫を行う。 ・思考ツールを利用し自分の考えをまとめたり、仲間の意見を視覚的に確認したりすることで、充実した話し合い活動を行う。

技術・家庭	【技術】 基礎的・基本的な知識や技能を定着させるとともに、それらを活用し、表現する力の育成を図る。 【家庭】 基礎的・基本的な知識や技能を定着させるとともに、それらを自らの実生活に活用し、よりよく生きる力の育成を図る。	【技術】 ・失敗を恐れずにももの作りができ、けががないような学習環境を整える。 ・思考ツールやペア、グループワーク等を意図的に取り入れ、対話的で深い学びにつなげる。 【家庭】 ・基礎的な技能の定着を図る。（定期的な反復練習） ・安全面での配慮と整備された学習環境 ・家庭科室内の個別サポートコーナーでの対話により個別最適化サポートがされる雰囲気を作る。 ・授業内容を我が事として捉え生活の中で生かしていく意欲を培う。
外国語 （英語）	主体的に学びに向かう力を育むみ、英語の4技能（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）をバランスよく身に着けた学習者の育成を目指す。	・全体指導と個別指導の両方を図り、個に応じた指導を行う。 ・対話活動では、事前準備を行うものと、即興で行うもののバランスを図る。 ・題材については、深い学びにつなげる発問になるよう、工夫する。 ・評価の基準を明確に示し、主体的に活動に取り組むよう促す。
道徳科	主体的に判断し、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。また、自らを律する心や他者を思いやる心など豊かな人間性を育む	・「話を聴く」ことのできる生徒を育成し、「聴き合える集団」のための自治と環境づくりを行っていく。 ・答えが1つではない道徳的な課題を提示し、生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」を行っていく。 ・3年間を見通した計画的、発展的な指導を行う。 ・学級における教師と生徒、生徒相互の信頼関係を築き、自分の感じ方や考え方を伸び伸びと表現できる雰囲気を作る。 ・教科等横断的な指導等を充実させる。